

はつきり話し、しっかり学ぶ速見っ子
やさしさあふれる速見っ子
みんな元気な速見っ子

児童数388名



速見小通信

門真市立速見小学校 発行者 杉井 信夫

令和6年9月24日 第7号



登下校の安全を願って

PTAの方々は、児童の皆さんが安心・安全に登下校できるように通学路を考えたり、学年を越えて近所の友達と仲良くできるように登校班を作ってくれたり、連絡指導員さんになって交通安全指導をしてくれたりしています。

そして、キッズサポーターさんと同じように、交通事故にあったり、怖い目にあったりしないことを願って、いろんな場面で見守りをしてくださっています。

9月の児童集会では、PTA役員をしていただいている保護者の方々が登下校の安全について次のようなお話をしてくださいます。



- ① 道を通っている他の人のことを考え、迷惑にならないようにしましょう。道路に広がったり、傘や袋を振り回しながら歩かないようにしましょう。
- ② お世話になっているキッズサポーターさんや連絡指導員さんに感謝をして、あいさつや、お礼を言しましょう。
- ③ 登校途中でしんどくなったり、忘れ物で家に引き返すときは、班の人に必ず声をかけてから戻ってください。
- ④ 登下校は、必ず通学路の決まったルートを通ってください。2学期も交通ルールを守り、安全な登下校をしましょう。

※登下校時の通学路について

登下校は学校の管理下に含まれないため、保護者（PTA）が安全のための登校班編成や通学路の決定、連絡指導員による安全指導を行っています。また、登下校時に通学路と定められた道路上でケガをした場合に限り、日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度が適用されます。必ず通学路を通るように家庭で指導をお願いいたします。

運動会のお願い

今年の運動会は8：50に開会します。

また、「tetoru」で配付した「運動会のお知らせ」のとおり、プログラムごとに「観覧スペースの保護者入れ替え」を行います。例えば1年生が競技している間は1年生の保護者が観覧スペースへ、4年生が競技している間は4年生の保護者が観覧スペースへとその都度入れ替わっていただきます。スムーズな進行にご協力くださいますようお願いいたします。

（お願い）

- ・保護者には競技ごとの場所移動をお願いすることになりますので、座席確保のためのシートの使用はお控えください。
- ・日傘、椅子、脚立などの使用につきましては、後方の方の視界をさえぎることの無いようにご使用願います。
- ・当日の天候等により中止の場合のみ「tetoru」で一斉メールをします。学校への電話問い合わせはご遠慮願います。
- ・運動会の練習は熱中症予防の対応を優先して実施しています。今後の気温によっては十分な練習ができずに運動会当日を迎える場合もあります。保護者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



第3回学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

授業参観日（9月10日）に学校運営協議会を実施しました。委員による全学年の授業参観を行い、学力調査結果や授業の様子を基に協議しました。

① 児童アンケートの結果について（学校の説明）

- ・経年変化で向上している項目は「自分に良いところがある」「夢や目標を持っている」「悩みを話せる友達、大人がいる」などで、学校の取組みやコミュニティ・スクールの成果が出ている。
- ・全国に比べて、生活面や学習面で全体的に肯定的な数値が高い。
- ・学校目標の「自主的に学ぶ姿勢」の数値も高まってきている。（委員より）
- ・先生が頑張っているのがわかる結果。「先生が認めてくれる」「教科教育が工夫されている」などが高い。学校でしていることを学校の中だけでなく地域に広げて取り組むことがいい。
- ・コミュニティ・スクールは子どもが社会に目を向けるきっかけになる。「社会のために何かしたい」は子どもにとって難しい項目だが、速見小は全国や府よりも高い。
- ・地域の大人がかかわることで夢や目標ができる。モデルになる人が身近にいることが大きい。
- ・子どもが積極的に地域社会に関わると、それに大人が巻き込まれるような形で地域社会に関わっていくこともあるのでは。子どもの活動は、大人の地域への関わりが広がるきっかけにもなる。

② 学力調査結果について（学校の説明）

- ・算数は、計算、図形、データ活用の領域のほとんどの問題で全国平均正答率を上回っている。課題は、説明する問題において、理由を不足なく説明できていないところ。相手に論理的に伝える力をつけたい。
- ・国語は、自分の考えを書くことについてよくできている。漢字を書くことも全国を大きく上回っている。授業の振り返りやPCの活用など、自分を表現する様々な取組みの成果ととらえている。

（委員より）

- ・自分の考えを書くことはできるが、論理的な文章を書くのが苦手なのは全国的な傾向。プログラミングの思考・論理性が必要とされている理由がわかる。
- ・ICT活用について子どもの肯定的評価が高く、子ども自身が効果を感じている。ICTを活用したアウトプットにもっと時間を使っても良い。
- ・PCに頼ると漢字を忘れてしまうのでバランスが大切。今後も漢字を書くことは大切にしてほしい。国語の力、文章を読み取る力が最も大切なので、読書などで日ごろから文章に触れ、読む機会を設けてほしい。



③ 授業参観より

- ・複数の学年で「子ども主体の授業」を行っていた。理科の実験は全員が同じ実験をするのではなく、それぞれが様々な方法で学んでいた。1年生の算数もグループの子ども同士で学んでいた。自分が子どものときに経験したことのない授業で面白かった。
- ・自分で考えて学んでいる姿が見えた。人とは違う方法で、自分で学ぶことができていた。その一方で、それぞれの学びをしている子どもを個別に支援しているので、先生が大変そうだった。
 - 学校としては授業に入ってもらおう大人が複数いるほうが良い。今回の参観では保護者にも参加してもらった。1学期の授業では、地域の方や保護者に入ってもらったことも良かった。
 - 保護者としては、「こんな活動をするので手伝いをしてほしい」と通信などでどんどんオープンにしようとして学校に入りやすい。やってみれば楽しいし、普段の授業に入ると参観の時に見られない普段の子どもの様子が見られるのも良い。
- ・子どもに教えすぎてもいけないので、授業に入るとどの程度まで関わればよいのかが難しい。保護者や地域から入ってもらう方には、ポイントを伝えておくことが大切。
 - 「子ども主体の学び」の先進校では、通常は教師だけが持っている「単元指導計画」を子どもにオープンにしている。単元計画を子どもだけでなく保護者にも見ってもらって、授業のねらいやゴールを大人と子どもが共有し、一緒に授業を作っていくことも可能ではないか。

10月の行事予定は裏面にあります